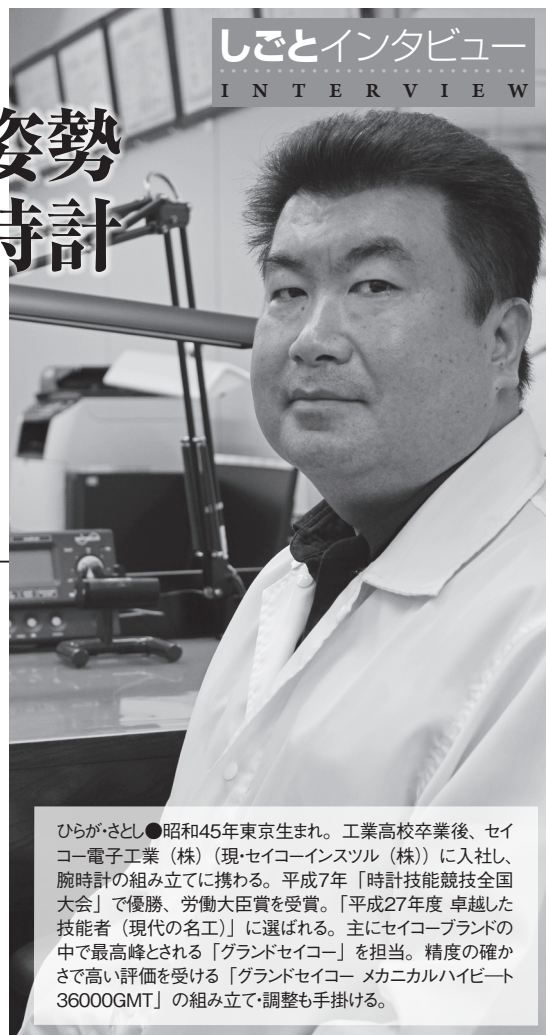


「仕事では妥協しない」姿勢を貫き、機械式高級腕時計を組み立てる

平賀さんは、機械式腕時計の組み立てで高い評価を受けている「現代の名工」です。その高い技能は「仕事では妥協しない」という姿勢に裏打ちされ、世界的に信頼が厚い機械式高級腕時計を生み出します。

機械式腕時計組み立て・修理 平賀 聡さん



ひらが・さとし ●昭和45年東京生まれ。工業高校卒業後、セイコー電子工業（株）（現・セイコーインスツル（株））に入社し、腕時計の組み立てに携わる。平成7年「時計技能競技全国大会」で優勝、労働大臣賞を受賞。「平成27年度 卓越した技能者（現代の名工）」に選ばれる。主にセイコーブランドの中で最高峰とされる「グランドセイコー」を担当。精度の確かさで高い評価を受ける「グランドセイコー メカニカルハイビート 36000GMT」の組み立て・調整も手掛ける。

配属された部門で、
仕事の面白さをみつける

——機械式腕時計の組み立てという仕事をなさっていますね。機械にはもともと興味があったのですか。

平賀 子どものころから機械に触れることが好きでした。父が機械関係の仕事をしていて、その姿を見て育ったからかもしれません。

——現在のお仕事に就くまでの経緯を教えてください。

平賀 私は工業高校に進み、電気を専攻しました。将来も電気関係の仕事に就きたいと考え、セイコーインスツルの前身であるセイコー電子工業に入社しました。半導体部門への配属を希望したのですが、実際に配属されたのは、

クォーツ式腕時計の組立部門でした。

自分の希望とは違う仕事に就くことになったけれど、そこで面白さをみつけようと思いました。「石の上にも3年」という言葉がありますが、まずは3年間しっかりと仕事をしようと決意を新たにしました。そうしたら子どものころの「機械が好き」という思いがよみがえり、楽しく仕事ができましたね。

クォーツ式腕時計の組み立ての仕事に就いて3年ほど経ったときに、機械式腕時計の組み立ての生産を再開することになり、そちらに移りました。

組み立てる人間の腕次第で
良し悪しが決まる機械式腕時計

——クォーツ式腕時計と機械式腕時計の組み立てには、どんな違いがあるのですか。

平賀 機械式腕時計は、組み立てる人間の「腕」によって精度が左右されるということでしょうか。機械式腕時計にはとても小さな部品がたくさんあります。細心の注意を払いながら組み立てないと、ちょっとしたことでそうした部品を傷つけたり、つぶしてしまったりということになりかねません。またそうした部品同士の咬み合わせが数ミクロン違っただけでも精度に影響します。自分では同じように組み立てていくつもりでも、測定機にかけると精

度に差があるのがわかります。

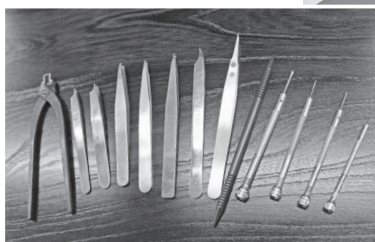
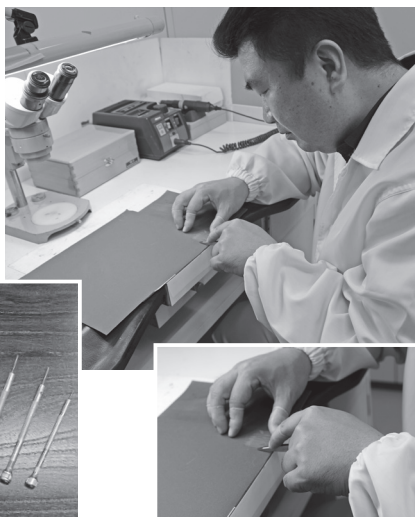
私が担当している機械式腕時計ブランドセイコーの高級品は、確かな精度のカギとなるヒゲゼンマイの調整などいくつもの難しい工程があり、精緻な仕事が必要られます。

——そのようなたいへんなお仕事を、どのようにして覚えていったのですか。

平賀 腕の確かな先輩たちにいるいろいろなことを教えてもらいました。自分ではきちんとできたつもりでも、測定機にかけると精度に問題がある。ある先輩は測定機に現れた曲線を見ただけで、どこがまずかったのがすぐにわかるのです。先輩に指摘されたことをやると、精度が確かなものになるんです。正直「すごい！」と思いました。

いまから振り返ると、先輩たちから教えてもらったことを、くり返し自分で確かめたということが、大切だったんじゃないかという気がしています。ある問題が起きたときには、一度目は先輩に訊くけれども、再び同じようなことが起きたら自分で対処するようにしました。振り返るとそうしたことを積み重ねていまの自分があるのだと感じます。人に訊くのは確かに早く対処できるけれど、それはかりだとその技能がなかなか自分の身につかない。一見回り道のように思えるけれども、自分で経験するということが、仕事を覚えるためには近道なんだということを痛感します。

——「自分も一人前になった」と思え



▲仕事で使う道具も自分で使いやすいように調整する。微妙な調整に顕微鏡を使うこともある。こうした数々の道具はいわば「平賀仕様」ともいえる。



▲組み立てには忍耐力と集中力が求められる。平賀さんは「腕を磨くには先輩から教わったことを自分で経験して確かめることが大切」と語る。

るようになるまでにどのくらいかかりましたか。

平賀 3年ほどでしょうか。あるとき先輩が気づかなかった不具合を私がみつけれ、直したことがありました。先輩から「よくやった」とほめられて、「自分もある程度のことはできるようなったかな」と思いました。

自分で組み立てた機械式腕時計がきちんと動いたときは、うれしかったですね。機械ではなく生き物が時を刻んでいるように思えて、とても感動しました。

時間をかけずに 基準以上の仕事をする

——お仕事ではどんなことを心がけていらつしやるのでしょうか。

平賀 一言で言うなら「妥協しない」ということです。これはいつも先輩から言われていたことでもあります。「このくらいでいいだろう」と思っただけで組み立てた腕時計を先輩に確かめてもらうのですが、幾度となく突き返されました。そうした中で先輩からは「いまは勉強中なんだから自分で完全に納得できるまでしっかり仕上げろ。そうせずに途中で妥協したらお前はそれ以上伸びない」と言われ、妥協せずに仕事に向き合う姿勢を叩きこまれました。そして満足のいく仕事を、時間をかけずにできるだけ早く仕上げることの大切さも学びました。基準以上のものを早く仕上げるというのは、ひい

てはお客様のご満足にもつながるということですね。

——お仕事の面白さややりがい、どんなところにありますか。

平賀 同じ部品を使って同じ時計を組み立てているんだけど、出来具合が微妙に違うのが機械式腕時計です。まったくやり直しをせずに一発で期待通りの精度になる場合もあれば、何度やっても思うような精度にならない場合もあります。自分では同じように作業をしているつもりなんだけれども、ちよつとした手加減でまったく違ったものになってしまう。そうしたときに、

いかにきちんとした精度にするかが腕の見せ所で、やりがいを感じますね。基準にはある程度の幅がありますが、そのぎりぎりの所ではなく、はじめから基準の最高値を目指すようにしています。それもあまり時間をかけずにやるように心がけています。

デパートなどで機械式腕時計の分解・組み立てを実演して、直接お客様と接して「いい時計だね」とお声をかけていただいたときは、とてもうれしです。やりがいにも結びつきます。もしそういう場でお叱りをいただいても、自分の反省点としてこれからの糧にしたいと思っています。

——お仕事で「難しいな」と感じるのはどんなところでしょうか。

平賀 それまで誰も扱ったことのない新製品を担当するときですね。自分なりに考えて組み立て、調整するのです

が、誰も扱ったことがないだけに難しさがありますね。それでも新しいことにチャレンジするという高揚感があります。

——後進の指導にもあたっていらつしやるようですが、どんなことを心がけていらつしやいますか。

平賀 同じことを教えても、ある人はすぐにわかるけれども、別の人はなかなか理解ができないという場合があります。そんなときは、同じことを違った角度から伝えようと努めています。話し方を変えることで伝わる場合もあるのです。正直に言えば人に教えることの難しさを実感し、自分でも教え方を勉強している最中です。

——腕時計の組み立ての仕事をしたいという若い人たちへのアドバイスをお願いします。

平賀 この仕事はとても細かい作業で、忍耐力と集中力がないと続けることができません。

それから人とのコミュニケーションも大切です。私はよい先輩たちに恵まれ、いろいろ教えてもらい、またわからないことを訊くというコミュニケーションができました。忍耐力と集中力に加え、コミュニケーションなど人との付き合いを重ねていくことも必要なのです。こうしたことは仕事だけではなく、プライベートでも培っていくことができます。そうしたふだんからの心がけが、仕事にも生きてくるのです。